

ま え が き

本書は、日本貿易振興機構アジア経済研究所が平成15年4月から平成16年8月まで計20回にわたって開催した「アフリカ経済実証分析の現状と可能性研究会」（主査・平野克己）における、熱い議論と勉学と練り込んだ思索の成果である。

本研究会は『アフリカ経済学宣言』（平野編，アジア経済研究所，2003年）に結晶した平成13年度「アフリカ経済論の再構築」研究会と平成14年度「新アフリカ経済論」研究会（いずれも平野主査）の後続にあたるもので、一貫して経済学研究者とアフリカ地域研究者の共同プロジェクトとして歩んできた。『アフリカ経済学宣言』のまえがきで「二の矢三の矢を放つ」と、これもまた宣言したのだが、本書は二の矢である。いまや世界の経済学研究の最前線に位置づけられているアフリカ経済研究の高い水準を目指し、我が国のアフリカ経済研究を一新しようという志が3年半のプロジェクトを牽引してきた。本書は、経済学を専門とする研究者の助けを借りながら、伝統的な地域研究手法を踏まえつつ計量実証分析に挑んだ。プロジェクトに参加した地域研究者は、計量経済学や統計学の吸収に真剣に取り組んだのであるが、至らぬ点は多々あるかと思う。批判を仰ぐとともにさらなる研鑽に勤しむ所存だが、職業として永くアフリカをみてきた人間がどのような問題意識から実証分析を試みているか、それを看取していただきたいと考える。

本研究会に講師として呼び出した絵所秀紀法政大学教授，石川滋一橋大学名誉教授，斎藤修一橋大学経済研究所教授，山野峰政策研究大学院大学助教授，研究所の同僚である小田尚也（在ラホール海外調査員），山形辰史（開発研

究センター開発戦略研究グループ長)に、この場を借りて再び、改めて御礼申し上げます。

2005年1月

編 者